

森林環境の大切さ考え

活動報告やパネルディスカッションで

富士地域森林
県民円卓会議



意見を交わすパネリストたち

富士地域森林県民円卓会議「地域の森にさまざまな取り組みが進めまざまな力を」が19日、富士宮市の井之頭区民館で開かれた。森づくりに関わる活動報告やパネルディスカッションなどを繰り広げ、約50人の参加者たちが森林環境の大切さ、森林整備・保全に向けた連携の必要性などについて理解を深めた。

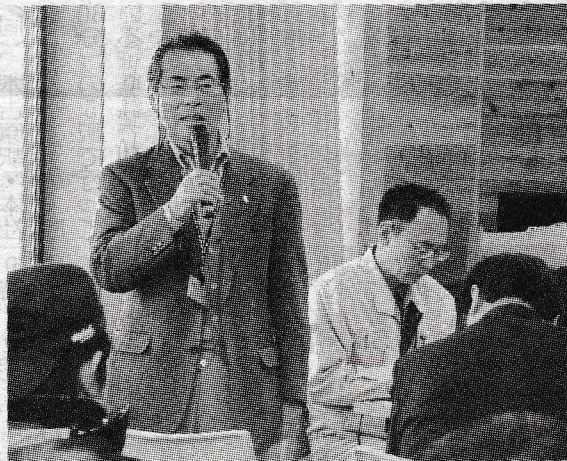
猪之頭地区では企業の社会貢献活動としての森づくり、地元小学生による緑の少年団、地元中学生による希望の森活動、住民による希望の森を育てる会など、森林に関わるさまざまな取り組みが進められている。

今回の会議はこうした活動の連携を図り、地区内外の森林環境の保全、活力あふれる地域づくりにつなげることを目的に開かれ、地元住民、森林所有者、森林整備や林業に関わる団体、行政機関の関係者、一般市民などが幅広く参加した。

開会に当たってあいさつした県森林県民円卓会議運営委員の小嶋睦雄さん（静岡大学名誉教授）は「森林の持

豊かな水環境や市民の暮らしを支えている。森づくりを森林所有者だけに任せるのではなく、県民・国民共有の財産としてさまざまな力を生かして守り育てていくことが大切」と述べた。

第1部の活動報告で



あいさつする小嶋さん

は、株式会社エンチャール経営企画室マネジャーの立林亮さんが「企業によるCSR活動としての森づくり」、富士宮地区労働者福祉協会の土宮地区労働者福祉協議会事務局次長の富田忍さんが「地元勤労者による森づくり活動」をテーマに話し、同社・同協議会の取り組みを紹介した。

第2部のパネルディスカッションでは井戸直樹さん（森のたね代表）・同円卓会議運営委員）がコーディネーターを務め、小嶋さん、立林さん、植松政臣さん（猪之頭区長）、山崎宏さん（NPO法人ポールアース研究所代表理事）、大石剛さん（県富士農林事務所農山村整備部技監）がパネリストとして意見を交わした。

地元住民として発言した植松さんは「多くの協力を得て、地域の森が少しずつ明るくなっている。今後は落葉樹の植栽なども進め、家族で遊びや小動物・野鳥観察を楽しみ、リフレッシュできる自然公園のような森をつくらうれしい」などと伝えた。